

未来へつなぐ

Vol.
144

文／本間 吾里砂

昼夜を問わず、一日千人以上の規模で行われる除排雪作業。冬期の列車運行は多くの人の力によって支えられています。

人の手が求められる 駅構内の除雪

氷点下まで気温が下がり、降雪量も多い北海道の冬は、列車の運行を維持するうえで最も手ごわいシーズンです。昨年度は岩見沢市が記録的な大雪に見舞われ、例年以上に厳しい冬となりました。JR北海道では列車の運行に支障が出ないように、さまざまな対策を講じていますが、中でも多くの時間と労力を費やしているのが除排雪です。毎年、厳冬期

になると全道各地の駅構内では、一日千人以上の規模で除排雪作業が行われています。駅構内の除雪は駅と保線所が連携し、「排雪モーターカー」などの機械を使って行っていますが、多くの機器類からなるポイントやホーム、屋根の上などは人の手による作業が不可欠です。また、除雪した雪は排雪のために整備した流雪溝に流すか、ダンプカーと重機を用いて堆雪場所へと運んで排雪処理しています。

このほか、冬期対策としてポイントマットヒーター、ポイント融雪ピット、圧縮空気式除雪装置などによる「ポイント不転換対策」、駅や駅間に防

雪柵を設置する「吹きだまり防止対策」なども実施。さらに車両に付着した雪氷の除去作業、トンネル内のつらら落としや結氷除去作業など、冬期間の取り組みは広範囲に及んでいます。

今年度は老朽化したDE15形ラッセル機関車に代わって、新型の除雪車両キヤ291形ラッセル気動車を石北線に導入し、除雪状況等の確認を行う計画です。使用時に除雪装置を取り付けるDE15形と違い、固定式の除雪装置が設置された新型除雪車両は、GPSによる除雪車両操作支援装置や除雪装置を撮影するカメラなどが搭載されているほか、除雪装置・エンジンなどの動作状況を運転室のモニターで確認することができます。

JR北海道では機械に頼るだけでなく、社員はもちろん、グループ会社や協力会社の人たちの力を結集し、これからも厳しい北海道の冬に挑み続けていきます。



岩見沢駅構内での人力による除排雪

毎日のように雪が降り続いた昨年度の岩見沢地区では、社員と除雪パートナーが総出で除排雪に当たったほか、一部の列車を運休させて行った集中除排雪に加え、本社からの応援部隊も参加しての夜間の除排雪を計六回にわたって実施しました。しかも、岩見沢地区の場合、冬期間は使用停止の線路を堆雪場所として利用し



新型除雪車両「キヤ291形ラッセル気動車」

今年度は老朽化したDE15形ラッセル機関車に代わって、新型の除雪車両キヤ291形ラッセル気動車を石北線に導入し、除雪状況等の確認を行う計画です。使用時に除雪装置を取り付けるDE15形と違い、固定式の除雪装置が設置された新型除雪車両は、GPSによる除雪車両操作支援装置や除雪装置を撮影するカメラなどが搭載されているほか、除雪装置・エンジンなどの動作状況を運転室のモニターで確認することができます。

JR北海道では機械に頼るだけでなく、社員はもちろん、グループ会社や協力会社の人たちの力を結集し、これからも厳しい北海道の冬に挑み続けていきます。